

2013年3月期 第3四半期決算説明会

質疑応答

Q. 補足資料P7の営業利益の増益要因の分析についてですが、第3四半期においても増収、粗利益率改善、販売管理費削減による増益となっており、第2四半期とほぼ同じような増益水準となっている印象です。第4四半期以降、金融の大型案件が業績に寄与することに伴い、この増収にかかる増益幅が増える可能性が出てくると考えてよろしいでしょうか。もしくは、何らかのコストが増えるといった要因を織り込んで考えた方がよろしいでしょうか。

A. 当社がターゲットとしております金融業、流通業、通信業といった戦略的業種において、現時点で一定規模の案件が確保されている状況であり、私どもとしては、当社想定業績が続くものと考えております。コスト構造については、目先大きな変化があるとは考えておりませんが、現在、収益性改善・向上の途中であり、今後も努力を続けることで、営業利益率を中期経営計画発表時にアナウンスしております8%－10%レベルまで引き上げていきたいと考えております。

Q. 第4四半期の業績見込みについてですが、先ほどご説明いただいたビジネスの状況、販売管理費の削減状況を前提に、通期予想と第3四半期実績との差し引きを第4四半期の見込みとして考えますと、やはり保守的に見えます。売上がこれまでと同様のトレンドであれば、第4四半期の営業利益は第3四半期と同様の増益水準で出てくるという考え方は楽観的でしょうか。

A. 販売管理費の削減についてですが、上期の説明でも申し上げましたが、稼働率の向上に伴って、これまで販売管理費で計上していたものが売上原価に計上され、結果として前年同期比で販売管理費が減ったように見える部分があります。したがって、販売管理費の削減状況のみを勘案し、第4四半期を予測することは非常に難しいと考えております。ただし、経費の削減努力は引き続き行っており、販売管理費の真水の削減余地は一部あると考えていただいてよろしいかと思えます。第4四半期の業績については、自然体で考えていただければ結構かと思えます。

Q. システム開発の受注高について、10-12月で見ますと前年同期比で微減となっていますが、業種別に増減を教えてください。また、第4四半期の見通しを教えてください。

A. 金融業向けについては、大型案件に関するフェーズの切り替えの端境期でございます。その関係で、現在の受注に予定案件の全てが反映されている訳ではないということをご理解下さい。また、今期期初から製造業をはじめとする幅広い業種の受注は、引き続き堅調に推移しており、現時点においてそのトレンドに変化はないとお考えください。ただし、製造業の一部、特定顧客においては、システム開発案件が前年同期比で減少している状況はあります。今後については、現在想定している大型案件の入れ替えが受注高に反映され、金融・通信分野等での受注計上が見込まれると想定しております。

Q. 業績予想を行う前提として、繰延税金資産に関して伺いたします。今期の税引前利益が上振れた場合、新たに繰延税金資産を積み増すということはあるのでしょうか。また、今後の当期利益を予想するにあたり、これまでと同様に税金はかからない前提で計算してもよろしいのでしょうか。

A. 繰延税金資産に関する会計処理については、今期の業績の着地動向、あるいは来年度予算に連動いたします。例えば、来期非常に大きな予算を組むということがあった場合には、繰延税金資産の追加計上という話が可能性としてありますが、これについては、来年度の予算策定にこれから取りかかるということもあり、現時点でお話しできることはありません。今後のPL上の税金計算ですが、既に計上しております繰延税金資産の範囲内では、今後の収益に通常の実効税率を乗じることで、当期利益ベースの業績を想定していただければ結構かと思えます。勿論キャッシュベースでは、今後の課税所得の8割において税金がかからないのは従来通りであります。

Q. 千葉のデータセンター用地を今期新規取得していると思いますが、来期中に大きな設備投資を行う可能性はあるのでしょうか。

A. 千葉のデータセンターに関しては、これから具体的な計画策定を行うということもあり、現時点では来期においてキャッシュベースで大きな設備投資はないと考えています。

以上